



minami
shinshu
ニッポンの日本。

すきです

南信州

飯田下伊那地域を拠点に 高度な人材輩出を目指して

平成 29 年 4 月 22 日 (土) 飯田市の旧長野県飯田工業高校校舎を改修し、「信州大学航空機システム共同研究講座」が開講されました。(写真 『開講式』 宣誓をする学生代表と信州大学濱田学長)

圏域内の人口・世帯数
(2017.5)

人口 159,684人
世帯 58,243戸



産業振興と人材育成の拠点 (旧県立飯田工業高校)

- 4階 大学サテライト機能誘致スペース
- 3階 信州大学南信州キャンパス、飯田産業技術大学教室
- 2階 信州大学航空機システム共同研究講座
- 1階 共創の場、情報発信スペース



◆CONTENTS◆

- 信州大学航空機システム共同研究講座 開講 2
- 5月議会報告、新任議員紹介 3
- 稲葉クリーンセンターからのお知らせ 4~5
- 広域振興イベント情報 6
- 飯田広域消防からのお知らせ 7~8

「信州大学航空機システム共同研究講座 開講」

平成 29 年 4 月 22 日（土）に旧飯田工業高校施設を利用して、南信州広域連合が整備を進めている「産業振興と人材育成の拠点」内に設置された信州大学南信州・飯田サテライトキャンパスで、「信州大学航空機システム共同研究講座」の開講式が行われました。

1 「航空機システム共同研究講座の紹介」

目的 飯田下伊那地域に新たな拠点を構え、航空機システム分野を中心とした新たな研究開発を実施するとともに、飯田下伊那地域や航空機システム産業界へ高度専門人材を輩出する。

設置期間 平成 29 年 4 月 1 日から平成 33 年 3 月 31 日まで

受講者数 平成 29 年度 3 名（信州大学 大学院生 2 名、社会人 1 名）
14 名（社会人スキルアップコース）

構成 「教育」「研究」「地域連携」の 3 つから構成されます。



2 「信州大学航空機システム共同研究講座」開講式



受講生



教授、スタッフ

3 「信州大学航空機システム共同研究講座 教授 柳原正明氏へのインタビュー」



●国立大学法人 信州大学
工学部 教授
航空宇宙システム研究センター
航空機システム部門長

●(兼)宇宙航空研究開発機構
(JAXA)特任担当役

工学博士 柳原 正明氏

この度、信州大学航空機システム共同研究講座の教授である柳原正明氏にお話を伺いました。

——都会から見た南信州の印象はどうか？

すごく気に入っています。東京では感じられないことが多く、朝、通勤するのも気持ちが良くて本当に良いところに来たと思っています。

——これまでの経歴を教えてください。

出身は神戸です。京都大学を卒業後、JAXA（宇宙航空研究開発機構）の前身である航空宇宙技術研究所（NAL）に入りました。NALでは、10年間ほど航空機の研究開発に従事し、続いて2年間、当時の科学技術庁に出向した後、NALとNASADA（宇宙開発事業団）が、共同で研究開発していた日本版スペースシャトル「HOPE（ホープ）」の仕事に携わりました。子どもの頃、アポロの月着陸に凄く感激したのをきっかけに、宇宙開発に興味を持っていましたので、自分が10年間で蓄えた航空機の技術をもって宇宙機を作るといふ、自分がやりたかったことが出来たので本当に楽しかったです。

——この講座でどのようなことを行いたいですか？

モノを作るといふ観点から、航空機装備品を大学とメーカーが一体となって世の中に出していくものはここにしかないと思っています。卒業後は、即戦力となる人材を育成したいと考えています。飯田はもちろんですが、日本全体を盛り上げようという気持ちがありますので、非常にやり甲斐を感じています。

——地域の子供達に伝えたいことはありますか？

飯田市役所の方と一緒に、去年も2回小学生対象の飛行機教室をやりました。1日目はゴム動力の模型飛行機を作ったり、なぜ飛行機は飛ぶんだという話をしました。2日目は東京へ行ってJAXAの施設見学をしました。最近の学生は自分が何をしようか迷っている人がいっぱいいますが、子どもの頃に生き甲斐を見つければ、すごく充実した人生が過ごせると思います。中学生、高校生にも航空機に興味を持ってもらって是非信州大学に進学していただき、この講座に来てもらいたいと考えています。

——最後に好きな言葉をお聞かせください。

「夢を持ち続けること」ですか。子どもの頃の夢があって、到達出来ないかもしれませんがそこに向かっていく姿勢があれば道は開けていくと思います。夢を捨てない気持ちは是非、子ども達に持ってほしいですね。

平成29年 南信州広域連合議会 第1回臨時会

平成29年5月26日(金) 飯田広域消防本部 3階大会議室

第1回臨時会が開催され、提出された議案（報告案件1件及び一般案件1件）はすべて原案どおり承認・可決されました。

【議長選挙】

審議に先立ち、不在となっていた議長の選挙が行われ議長に清水勇氏（飯田市）が選出されました。

【議案の内容】

○報告1号

平成28年度南信州広域連合一般会計繰越明許費繰越計算書の報告について

○議案第12号

平成29年度南信州広域連合一般会計補正予算（第1号）案



清水 勇 氏

【全員協議会】

議会終了後 飯田広域消防本部 3階大会議室

【協議・報告事項】

- 1 各検討委員会の委員の指名について
- 2 リニア中央新幹線について
- 3 産業振興と人材育成の拠点整備について
- 4 看護師等確保対策修学資金の応募状況について
- 5 稲葉クリーンセンター建設工事施工状況について
- 6 南信濃南和田（通称）戸倉山東側尾根付近で発生した林野火災について
- 7 広域連合議会新人議員等研修会について
- 8 南信州地域戦略会議（5/15）について
- 9 県議会現地調査について
- 10 長野県知事及び長野県警察本部長への要望書提出について



議会風景

新しい広域連合議会議員の紹介

議員の辞職、市町村議会の改選等に伴い選出された議員です。（議席番号順、敬称略）

- | | | |
|--------------|--------------|-------------|
| ・熊谷 英俊（大鹿村） | ・丸本 清（泰阜村） | ・板倉 幸正（天龍村） |
| ・原 光史（根羽村） | ・勝野 猶美（阿南町） | ・栗生 勝由（阿南町） |
| ・熊谷 泰人（飯田市） | ・湯澤 啓次（飯田市） | ・永井 一英（飯田市） |
| ・福沢 清（飯田市） | ・木下 容子（飯田市） | ・湊 猛（飯田市） |
| ・新井 信一郎（飯田市） | ・清水 勇（飯田市） | ・吉川 秋利（飯田市） |
| ・木下 克志（飯田市） | ・村松 まり子（飯田市） | ・井坪 隆（飯田市） |

【稲葉クリーンセンターからのお知らせ】

南信州広域連合で整備を進めている「稲葉クリーンセンター（次期ごみ処理施設）」は、平成29年12月1日に正式稼働する予定です。

1. クリーンセンターの運転と燃やすごみの受入れ（直接搬入）について

※ 平成29年12月1日からの正式稼働に備えて・・・

平成29年9月1日から稲葉クリーンセンターの運転が始まります

【燃やすごみの搬入場所が変わります】



【桐林クリーンセンター】
ごみの受入は
8月31日までです

【稲葉クリーンセンター】
9月1日から
ごみの受入れを始めます

2. クリーンセンターへ燃やすごみを持込んだ時（直接搬入）の料金が改訂されます

【桐林クリーンセンター】
8月31日まで
10kgあたり 230円

【稲葉クリーンセンター】
9月1日から
10kgあたり 180円

3. 燃やすごみの種類が変わるため、燃やすごみの袋が変わります

【桐林クリーンセンター】
8月31日まで
紙の袋

【稲葉クリーンセンター】
9月1日から
黄色の袋（ポリ袋）

稲葉クリーンセンターでは、これまで燃やせなかったプラスチック類や皮革製品等が燃やすごみの対象となるため、燃やすごみの袋が変わります。（ごみの分別については、お住まいの市町村からお知らせされます）

- ※ 8月31日までは黄色い袋は使用できません。
- ※ 黄色い袋が使用できるのは9月1日からです。
- ※ 桐林クリーンセンターでは黄色い袋は受け入れる事が出来ません。



※ 今までご使用いただいていた「紙の袋」は、稲葉クリーンセンターでも使用できます

4. 工事の状況 (H29.6 現在)



※ 工事は、平成29年6月5日現在、全体の85%程度進捗しており、計画どおり順調に進んでいます。工場棟、管理棟、計量棟は6月中に竣工する予定です。

5. 稲葉クリーンセンター案内図



【今後の予定】

- H29.7.28~30(金~日)・・・稲葉クリーンセンター内覧会
- H29.9.1・・・・・・・・・・・・稲葉クリーンセンターでのごみの受入を開始
- H29.12・・・・・・・・・・・・正式稼働

【燃やすごみを出す時は、以下の点にご注意下さい!】

1. 金属など、はずせるものは、はずして出してください
2. 容器包装リサイクルの対象となるプラスチック類は、今までどおりプラ資源としてください
3. 生ごみはしっかり水切りをしてから出してください

『ごみの分別・収集』については、今後、ご自分がお住まいの市町村からお知らせされます。詳細は、各市町村のごみ処理担当部署へお問い合わせください。

イタリアの田園風景から学ぶ景観講演会を開催しました

法政大学 デザイン工学部 建築学科 陣内秀信教授による景観講演会「イタリアにおける地域の新しい試み～歴史や生活、知恵、資産を最大限に活かす～」を、5月20日（土）長野県飯田合同庁舎3階講堂において開催しました。

当日は約100名もの飯田下伊那の住民が足をお運びいただき、陣内教授の話に熱心に耳を傾けていました。

陣内教授が取り組まれたイタリアのトスカーナやアマルフィといったテリトリーオ*の調査研究を通じて、現在の日本の抱える人口減少や高齢化に伴う耕作放棄地や空き家問題が、1970年代のイタリアにおいても既に起きていたことを説明。

また、イタリアではそういった問題や課題を負債ではなく資産としてとらえたことにより、田園の豊かさが守られ、それをうまく活用する取り組みとして世界遺産に登録を行い、今では世界から多くの観光客が訪れる地域になっていったと解説されました。

南信州には宝物がたくさんあるので、リニア中央新幹線が開通するまでにそれを再発見し、最大限に活かすことで、魅力ある地域にしてほしいとエールを送っていただきました。



来場者からは、

- ・イタリアの事例から参考にできそうなものは取り組んでみてはどうか
- ・地域の文化や歴史を活かすこと、（地域の）良さに気づくことの大切さを改めて感じた
- ・（陣内教授の）話を聞いて、地元を再度見直してみたい
- ・地域の財産の見直しと、住民との意識の共有も必要と感じた
- ・地域資源の再評価、利活用の重要性を強く感じた
- ・イタリアが田園と都市のまちづくりの最先端とは思わなかった
- ・景観ということばの意味について、初めて納得のいく説明を聞かせていただきました
- ・政策も大事だが、住民の価値観と多様性が大事だと思った

とアンケートから前向きなご意見をいただきました。

リニア中央新幹線の開通によって、当地域と都市との移動時間が大幅に短縮し、観光やビジネスといった交流人口の増加、経済効果が見込まれる一方、利便性向上による人材の流出などが懸念されています。マイナスの影響を最小限におさえるために魅力的な地域づくりは重要な検討課題です。南信州広域連合では今後も魅力的な地域づくりに資する地域全体の景観を活かした取り組みなどの研究を進めてまいります。

*「テリトリーオ」…都市と周辺の田園部、農村部の全体がバランスよく個性を出しながら経済が成り立っている地域。

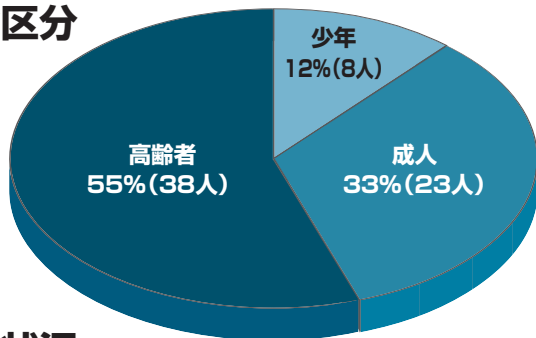
熱中症にご注意を

熱中症予防の5ポイント

- ◆部屋の温度をこまめにチェックし、室温が**28℃**を超えないように、エアコンや扇風機を上手に使いましょう！
- ◆のどが渇かなくてもこまめに**水分補給**！（※**塩分補給**も忘れずに！）
- ◆日頃から**十分な睡眠**と**栄養バランスの良い食事**をしましょう！
- ◆外出の際は、体をしめつけない**涼しい服装**で、日よけ対策をしましょう！
- ◆屋内外とわず、運動時は**こまめに休憩**をとりましょう！

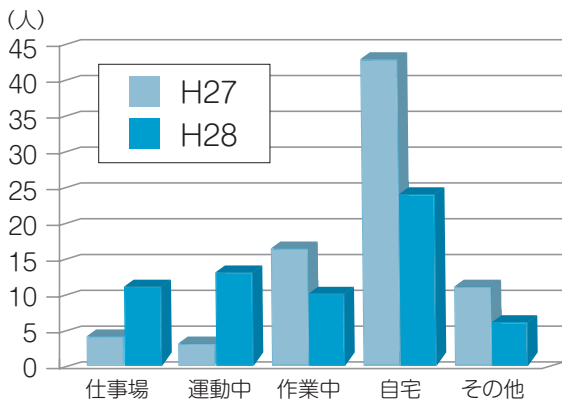
熱中症による救急搬送状況

年齢区分



飯田下伊那地域における、熱中症疑いによる救急搬送人員は69人（※平成28年調査）で、そのうち**高齢者（満65歳以上）の搬送は38人と、全体の55%**を占めました。高齢者は、体温を下げるための身体の反応が弱くなっており、のどの渇きや暑さを感じにくく、知らないうちに熱中症になっていることがあります。

発症状況



発症状況別にみると…

- ・自宅での発症が一番多くなっています。
- ・仕事場や運動中における発症が前年に比べて増加しています。

※平成28年調査

平成28年4月25日～10月2日（160日間）

熱中症の症状と応急手当

重症度

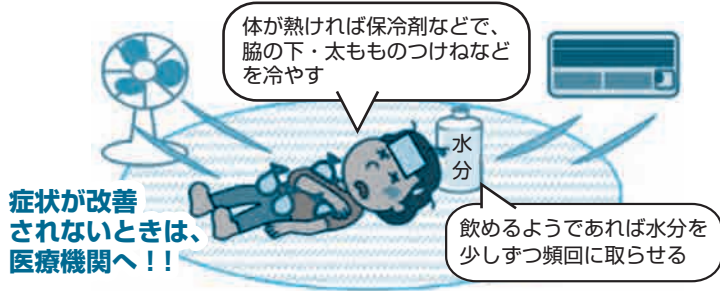
・めまい ・立ちくらみ
・足がつる ・手足のしびれ

・頭痛 ・吐き気
・体がだるい
・体に力が入らない
・集中力や判断力の低下

・意識障害
（呼びかけに反応が悪い
会話がおかしいなど）
・けいれん
・普段どおりに歩けない
・意識がない

+ 熱中症の応急手当 +

- + 涼しい場所へ移動し、衣服を緩め、安静に寝かせる
- + エアコンをつける、扇風機・うちわなどで風をあて、体を冷やす



こんなときは、すぐに
119番 救急車



飯田広域消防からのお知らせ

飯田市南信濃(南和田)における林野火災について

火災の概要

平成29年5月5日(金)、飯田市南信濃南和田地籍(戸倉山1,167m)において、林野火災が発生しました。火災は4日間にわたって燃え続け、5月9日(火)13時30分に鎮火しました。

この火災による人的・住家被害はありませんでした。

各機関の活動規模(延べ)

機 関	隊数等	人数(名)
飯田広域消防本部	34隊	118
長野県消防防災航空隊	6隊	17
飯 田 市 消 防 団	13個分団	260
天 龍 村 消 防 団	2個分団	35
地上部隊 合計		430
静岡県消防防災航空隊	3機	18
愛知県防災航空隊	1機	7
岐阜県防災航空隊	1機	7
埼玉県防災航空隊	2機	12
東京消防庁航空隊	1機	7
陸 上 自 衛 隊	13機	104
回転翼機 合計	21機	155
合 計		585



「背負い式消火水のう」を使用した
地上部隊による消火活動

各機関の活動

この火災に対して、5都県の消防防災ヘリと陸上自衛隊ヘリを要請し、延べ194回、散水量589,100ℓにおよぶ空中消火を実施しました。

また、地上部隊(消防署及び消防団)は「背負い式消火水のう」による消火活動を実施しました。

初動から関係機関の協力のもとに消火活動を実施しましたが、長期化したのは以下の要因が考えられます。
○地上部隊の展開が困難な急峻な地形であったこと。
○上空からの散水を通しにくい広葉樹の多い植生帯であったこと。
○落ち葉が堆積しており、蓄熱しやすい環境であったこと。



平岡ダムで自給水を行う陸上自衛隊ヘリ(CH-47)

おわりに

今年の3月5日以降、県内での林野火災や山岳救助等には他県の消防防災ヘリ等に出動を要請している状況を踏まえ、飯田広域消防としましても、迅速かつ適切に災害対応をまいります。

住民の皆様におかれましては、山間地での火の取扱いに十分ご注意ください。林野火災の防止にご理解とご協力をお願いいたします。

また、自分の体力・体調にあった登山を心掛け、遭難事故防止にもご協力をお願いいたします。